文教厚生委員会会議録

平成２３年８月２３日（火）
午後３時５５分　　開　会

○山田清一委員長

文教厚生委員会を開会します。

閉会中の調査事項について、を議題とします。8 月 18 日に県内視察を行いまして、その意見集約を行います。委員の皆さんには、すでにご意見等を提出いただいており、お手元にお配りしてあります。これらをお読みいただいて、何かご意見はありませんか。

【発言なし】

今回初めて文書化していただいたので、今後の調査研究に生かしていきたいと思います。

○石川英之委員

文書化しないと一人ひとりの意見を口頭で求めるだけでしたが、こうして文書化するということで意見集約ができてしまっていると思います。

○中村宗雄委員

こうして意見が出ている中で、今後進む道を教えていただきたい。

○山田清一委員長

中村委員のご意見の中の、③の介護予防を目的化せず手段と考えると目的は何なのか。医療費削減か、高齢者の人間として尊厳を保つことか。というと、間違いなく両方であると思います。今回の視察でいただいた資料でもそういった話があるし、以前に伺った話でもどちらも目指していくということであろう。介護予防というのは、意識がまだまだ低いという現状を打ち破るためにどのようにすればいいのか。意識向上のためにどのような展開をしていくのかということは、まだ見えてきていない。そこでまず最初にあいち介護予防支援センターへ行きたかった理由はそれで、情報がたくさんある、他市町の情報も多くある。津下先生がおっしゃったように、どこかがやっているからそのまま半田市にというのは当てはまらない、ということを踏まえると、当局ともしっかり精査して、有意義な視察をして、明確な方向性を見つけたい。たくさんの資料をいただいたので、非常に価値あるものだと思います。また、調査研究が進んだ段階で、津下先生にもご助言いただきながら進めていきたいと考えています。

○中村宗雄委員

津下さんの話を聞いて思ったのは、半田市がやらなければならないことと、委員会がやりたいことが違うんだろうと。やらなければならないことすらできていない現状にあることが大きな問題だと思います。誰のための介護予防かといえば、もちろん本人であって、制度や仕組みではなく意識改革から入っていくべきだという話もありましたし、でも最初のひと転がしは必要だという話もありました。何から触っていいのか、ふりだしからやればいいのでしょうが、途中の介護予防という手段からやろうとしていることが、とても難しい。どこまで遡ればいいのかということも含めて、大きく舵を切らないと形だけで終わってしまいそうだ。特色ある施策をやっておけばいいのかというと、そうでもないだろう。

○山田清一委員長

おっしゃるとおりで、半田市の状況を介護予防支援センターに早急に届けて、分析していただき、その結果を受けて、それは現在進行しているものを改善するための対応をしなけれ

ばいけない。それとともに、中長期的な展望をもっていきたい。センターには、頼めますよね。今まであのセンターを利用するという発想がなかったのかなとも思いますので、今の状況で何か問題で、どういった取り組みが足らないか、成果が上がっていないか、を助言いただくようなことを早急にやったらどうか。

○藤田介護保険課長

視察後に担当の方と話をさせていただいて、非常に勉強になって、今後も身近なところなので連携をする中で進めていきたいということを言いました。そこで、連携は必要だと思っている、というお答えをいただきました。

○山田清一委員長

これは早急に対応していきたいと思っております。その上で皆さんにも情報提供していきたい。

○山内悟委員

地元の大府、東浦は頻繁に使っている。遠くの市町も頻繁に使っている。半田市は10ｋｍ圏内なので、使わないともったいないと思いました。それで連携の仕方だが、健康づくりリーダーを予防リーダーにどうしていくかということは課題だと思いますが、健康づくりリーダーだけでなくても、市民全体を対象とした講演会を開いたりしてもいいと思います。

○保科保健センター主幹

健康づくりリーダーは84人ということで、あちらまで受けに行っています。半田市内には、健康づくり連絡会、体操の団体が 70 近く、2000 人くらいあります。もう何十年も体操をやっているので、さわやかフェスティバルという健康体操のフェスティバルでも歳の大きい男性、女性も多くやっていている。リーダーについても活性化することがないといけないということで、育成講習会を実施したりしています。老人会などでやっていただくと、交通費程度の報償費を活動費として保健センターが予算化している。津下先生がそこまでご存じではなかったのですが、半田市の場合は、市としてもリーダーの活躍の場という面で応援しており、活発に活動していただいていると思います。介護予防リーダーの 7 人で割らずに、健康づくりリーダー84人で割ればもっと減るのにと思いました。介護予防リーダーは、昨年3人、今年 4 人と受けていただいているのですが、実際には定員があって行けなかったというケースもあります。半田市としては、受けられた方を中心に健康づくり連絡会のレベルアップと、もっと介護予防リーダーを受けられるように、定員を増やしてほしいという要望を出しています。半田市では、健康体操を長く続けていただいている市民の方に、健康という部分では支えていただいていると思います。

○山内悟委員

健康体操という隠れた半田市独自の施策もあってやっているが、結果的に悪い指標が指摘されていた。その原因の詳しい分析をしなければいけないが、半田市は独自のこともやっていることはよく分かりました。

○中村宗雄委員

意見集約すると、皆さんほぼ同じような意見を持っていらっしゃると思います。分野が広い話だということに気づいて、どこから手をつけたらいいかわからない中で、この委員会が何に取り組むかを決めてやっていかないといけないと思います。医療費を削減するといえば、物差しがわかって、そこから施策が出てくる。介護予防リーダーが何人かというのは手段で

あるのに、どうしてもそこへいってしまう。そもそも何を目的にするのか、例えば高齢者の人間としての尊厳を守るのなら、それをどういう物差しで測るのか。それを絞り込んでいかないと、分野が広いということを今回の視察で学んだと思います。それは間違いなく私たちで決めることで、当局が決めることではない。もともとある程度膨らめた調査テーマの中で、絞り込んでいかないと最後に市に提言できない。短期なのか、中期なのか、長期なのか、今短期的に足りないものを津下さんに出していただいて、そこにこの委員会が絡んでいっても仕方ないので、中長期的なところで着目点を決めて特化してやっていかないといけない。例えば委員長の腹案で決めるのか、それも含めて考えていただきたい。

○山田清一委員長

絞り込みということでは、そこが明確になっていないので視察先も決まっていない。医療費の削減も目的ではあるが、それだけではない。高齢者がいきいきと暮らすことができる、プラス医療費の削減ということで、答は一つではない。健康づくりといっても広く、世代も幅広い。的の絞り込みに関して、委員の皆さんのご意見があればお聞きします。

しばらく休憩します。

午後４時１４分　　休　憩

午後４時３０分　　再　開

○山田清一委員長

委員会を再開します。

【発言なし】

次に、７月１２日の委員会において、答弁が保留となっていました事項について、本日、資料が配られています。当局から説明をお願いします。

○藤田介護保険課長

〔資料「閉会中の調査関係追加資料」に基づき説明〕

前期高齢者と後期高齢者の数の割合がどうかというと、資料にありませんので説明させていただきます。国では前期高齢者 52.4%、後期高齢者が 47.6%で、愛知県は前期高齢者 57.1%、後期高齢者 42.9%、半田市は前期高齢者 55.6%、後期高齢者 44.4%です。

地区別の認定者数の割合が、成岩と亀崎で高いかというと、成岩だと第２瑞光がある、亀崎だとケアハウスきぬうらがあることと、後期高齢者の割合が高いからではないかと考えております。青山にも第１瑞光があるが、前期高齢者の割合が高いので、認定率が低いのかと思っております。

○山田清一委員長

ただいまの説明にご質疑ありませんか。

【発言なし】

以上で、本日皆さんにご協議いただきたい事項は終わりました。その他で何かありましたらお願いします。

【発言なし】

ないようですので、文教厚生委員会を閉会します。

午後４時３５分　　閉　会